

平成20年度予算

平成20年度の各会計の予算総額は、349億8千630万円で、昨年度の当初予算と比較すると、14.1%の減となりました。

前年度当初予算と比較すると、一般会計が5.3%の減（平成19・20年度における特殊要因である受託事業費や地域総合整備資金貸付金、土地開発公社貸付金を除く実質的な比較では2.9%の減）、特別会計の合計が24.6%の減、水道事業会計が9.9%の増加になりました。

現在、市の財政は、市債の償還や退職手当の増などにより大変厳しい状況にあり、平成20年度の予算では、大型建設事業を抑制するとともに、経費全般にわたる徹底した節減合理化や市税収納率の向上、遊休不動産の売却、事務事業の見直しなどによる効果を予算に反映しました。

一般会計の主な歳入では、市税が前年度比3.8%増の56億3千741万円、地方交付税は対前年度比3.4%減の50億7千700万円をそれぞれ見込み、市債は、退職手当の増加に対応するための退職手当債4億3千220万円を含む、11億7千500万円を計上しました。

なお、市の貯金に当る財政調整基金積立金などから3億5千万円、財政調整基金と同じ性格を持つ北海道市町村備荒資金組合超過納付金から2億1千万円を充て、財源不足を補うこととしました。

一般会計の主な歳出では、総務費が行政情報化経費やOA化推進経費、貸付金等の減少などから、対前年度比33.6%減の7億3千546万円、民生費は医療助成や生活保護の扶助費の減少が見込まれることから、対前年度比4.1%減の56億982万円、土木費は幌別東団地建替事業の終了や市道改良・舗装事業の減少などから、対前年度比18.7%減の15億1千162万円、教育費は、小学校と図書館便所の洋式化や放課後子ども教室の開設などの事業を計上し、対前年度比5%増の8億9千603万円、市債の償還金にあたる公債費は、通常各市債償還金に加え、後年度の財政負担を軽減するため、高金利の公的資金について繰上償還を行うこととしましたが、平成19年度の繰上償還による影響もあり、対前年度比1.5%減の33億7千463万円、給与費は、団塊の世代の定年退職により退職手当が増加しましたが、職員数の削減や給料・退職手当の独自削減による効果を反映したことから、対前年度比2.6%減の43億1千253万円となりました。

各会計予算総括表

(単位：万円・%)

会計区分	平成20年度 当初予算額	平成19年度 当初予算額	比較増減	伸率 (%)
一般会計	1,837,800	1,940,800	△ 103,000	△ 5.3
特別会計	1,490,850	1,978,180	△ 487,330	△ 24.6
国民健康保険	657,480	684,360	△ 26,880	△ 3.9
学校給食事業	34,530	33,620	910	2.7
公共下水道事業	379,440	277,270	102,170	36.8
老人保健	58,400	683,520	△ 625,120	△ 91.5
簡易水道事業	2,820	3,370	△ 550	△ 16.3
介護保険	282,350	283,420	△ 1,070	△ 0.4
カルルス温泉 スキー場事業	12,180	12,620	△ 440	△ 3.5
後期高齢者医療	63,650		63,650	皆増
水道事業会計	169,980	154,630	15,350	9.9
収益的支出	93,190	93,170	20	0.0
資本的支出	76,790	61,460	15,330	24.9
合 計	3,498,630	4,073,610	△ 574,980	△ 14.1

一般会計歳入

(単位：万円・%)

費 目	平成20年度		平成19年度 当初予算額	比較増減	伸率 (%)
	当初予算額	構成比			
市税	563,741	30.7	543,062	20,679	3.8
地方交付税	507,700	27.6	525,700	△ 18,000	△ 3.4
使用料及び手数料	59,291	3.2	61,652	△ 2,361	△ 3.8
国庫支出金	206,855	11.3	237,032	△ 30,177	△ 12.7
道支出金	97,779	5.3	85,455	12,324	14.4
繰入金	82,181	4.5	100,555	△ 18,374	△ 18.3
諸収入	76,771	4.2	126,667	△ 49,896	△ 39.4
市債	117,500	6.4	138,350	△ 20,850	△ 15.1
その他	125,982	6.8	122,327	3,655	3.0
合 計	1,837,800	100.0	1,940,800	△ 103,000	△ 5.3

一般会計歳出

(単位：万円・%)

費 目	平成20年度		平成19年度 当初予算額	比較増減	伸率 (%)
	当初予算額	構成比			
議会費	14,463	0.8	14,884	△ 421	△ 2.8
総務費	73,546	4.0	110,750	△ 37,204	△ 33.6
民生費	560,982	30.5	585,010	△ 24,028	△ 4.1
衛生費	125,255	6.8	114,951	10,304	9.0
労働費	9,438	0.5	9,464	△ 26	△ 0.3
農林水産業費	4,777	0.2	6,258	△ 1,481	△ 23.7
商工費	25,638	1.4	26,909	△ 1,271	△ 4.7
土木費	151,162	8.2	185,862	△ 34,700	△ 18.7
消防費	9,220	0.5	11,031	△ 1,811	△ 16.4
教育費	89,603	4.9	85,341	4,262	5.0
公債費	337,463	18.4	342,654	△ 5,191	△ 1.5
給与費	431,253	23.5	442,686	△ 11,433	△ 2.6
予備費	5,000	0.3	5,000	0	0.0
合 計	1,837,800	100.0	1,940,800	△ 103,000	△ 5.3

『一般会計歳入』

- ◎市税…市民税や固定資産税、都市計画税、軽自動車税、市たばこ税、入湯税があり、市の収入の約4分の1を占めています。
- ◎地方交付税…地方公共団体が標準的な行政サービスを提供できるよう、財政状況などに応じて国から配分されるお金。
- ◎使用料及び手数料…ごみ処理手数料や建築確認手数料、戸籍手数料など、利用した方が納める受益者負担金。
- ◎国庫（道）支出金…交付金や補助金、委託金があり、市が事業や事務を行うために国や道から交付されるお金。
- ◎繰入金…基金（家庭でいうと貯金）を取り崩して使用するお金。
- ◎諸収入…基金の利子や貸付金の回収元金、利子、福祉施設に入所している方に負担金として納めていただくお金など。
- ◎市債…施設や道路などを整備する際、通常の財源だけでまかなうのが困難なため、借り入れするお金。
- ◎その他…自動車重量税や消費税などの税金の一部が国から交付されるお金など。

『一般会計歳出』

- ◎議会費…市議会に関することに使うお金。
- ◎総務費…国際交流や各地域との交流、地域情報化、広報広聴活動、防災などに使うお金。
- ◎民生費…福祉に関することに使うお金。
- ◎衛生費…健康の増進や病気の予防、ごみの処理などに関することに使うお金。
- ◎労働費…労働に関することに使うお金。
- ◎農林水産業費…農業や水産業に関することに使うお金。
- ◎商工費…商工業に関することに使うお金。
- ◎土木費…都市基盤整備に関することに使うお金。
- ◎消防費…火災や救急業務に関することに使うお金。
- ◎教育費…教育に関することに使うお金。
- ◎公債費…借入金の返済に使うお金。
- ◎給与費…職員の給与に使うお金。
- ◎予備費…予備のお金。

特別会計・事業会計

『国民健康保険特別会計』

国民健康保険加入者の医療費の一部負担や各種検診の助成、健康づくりなどの事業を行います。

『学校給食事業特別会計』

子どもたちの栄養を満たすことができるおいしい給食を市内の小・中学校や保育所に調理・配送します。

『公共下水道事業特別会計』

都市基盤整備の一環である公共下水道を整備します。今年度は登別東町3・4丁目の一部の下水道を整備します。

公共下水道整備区域外となる『個別排水処理区域』では、住民の要望により、市が浄化槽を設置・維持管理をする『個別排水処理施設整備事業』を行います。

『老人保健特別会計』

高齢者の医療費負担を軽減するため、医療費の一部負担などを行います。

※後期高齢者医療制度の創設に伴い、平成20年3月診療分までの医療費の一部負担を行います。

『簡易水道特別会計』

札内地区などの飲料・営農用水施設の整備を行います。

『介護保険特別会計』

介護が必要な高齢者などを対象に、在宅や施設での介護サービスを行います。

『カルルス温泉スキー場事業特別会計』

カルルス温泉スキー場の運営を委託し、ウインタースポーツの振興と観光振興、カルルス地区の活性化を図ります。

『後期高齢者医療特別会計』

75歳以上の方などを対象に、北海道後期高齢者医療広域連合が保険者として運営する後期高齢者医療制度の事務のうち、市は保険料の徴収や窓口業務などを行います。

『水道事業会計』

安全で良質な水の供給や送配水施設の整備などを行います。